

ポスター発表 3			
主題	地域資源の導入と利用者の笑顔・満足を目指して		
副題	身近になった小学生との交流と、「選べる」買い物の支援		
キーワード1	レクリエーション	キーワード2	社会資源
研究期間	9ヶ月		
法人名	社会福祉法人アゼリヤ会		
事業所名	特別養護老人ホーム あかね苑		
発表者：猪股 健太郎	アドバイザー：		
共同研究者：大住 優			
電 話	03-3266-1811	FAX	03-3266-0801
今回発表の事業所やサービスの紹介	あかね苑は平成2年に、新宿区が開設した施設です。平成17年度からは、開設時より区の事業・施設の管理運営を受託してきたアゼリヤ会の自主運営となり、新宿東部地域におけるパイオニアとして、幅広い事業を展開しています。あかね苑は、地域に開かれ、親しまれ、様々なニーズに対応できる総合的な高齢者福祉施設づくりを目指しています。		
《1. 研究前の状況と課題》 以前より毎月施設内で行われる誕生祝い会に近隣の小学生に来ていただき、手作りのプレゼントをしていただくなどの交流を持って楽しい時間を過ごしてきた。またご利用者の重度化や、近くにお店が少ないこともあり買い物支援として職員が買いに行ったり、インターネットスーパーを利用して嗜好品や日用品をチラシを見て購入していたが、ご利用者の評判はいまいちで、希望の物と違うなどトラブルもあった。		《2. 研究の目的ならびに仮説》 ご利用者と小学生がふれあっている誕生会においては笑顔が多く、この機会をもう少し増やすことができないか、もっと他の方法で買い物支援をすることができないか、職員数が限られえている中、商品を手に取って買い物をすることができるすべはないか、生活相談員として利用者の満足向上を目的に取り組んだ。	

《3. 具体的な取り組みの内容》

小学校の先生と話し合いを持ち、総合学習のひとつに組み込んでいただけないか相談した。月1回の誕生祝い会を通じて生徒の反応やご利用者の笑顔を今までの経過で相乗効果があることを確認。中・高学年生を中心にどんなことが高齢者に喜ばれるか生徒で考え、準備することとなる。

買い物支援においてはインターネットスーパーも残しつつ、新宿区内のスーパーに数件問い合わせをしていたところ、丸正総本店において、とくし丸という軽トラックに丸正の商品を乗せた移動スーパーをしていることがわかり問い合わせる。とくし丸においても、販売コースを模索中で、なかなかトラックを止めてお店を広げるスペースがないとの話もあり、昨年9月より施設玄関前で開店をすることができた。

《4. 取り組みの結果》

6月より小学生による企画で誕生会とは別な日に、「元気パワーアップ体操」「手作り紙芝居」「ダンス」「演奏」などをご利用者の席の近くで行うことで、より近くで一緒に語り合ったり、躍動感ある動きに応援したり、笑顔が増えた。利用者からは、「子供たちの元気な姿を見ていると、こっちも元気になってくるよ!」と喜びの声が多く聞かれるようになった。

また学校側でも、活動後に学習発表会を催し、他学年の教師も集めて行うことで学校全体として地域活動に取り組もうという意識が芽生えたと後日お話をいただいた。

施設の玄関先で店頭商品と変わらない品揃えで、手に取って好みの飲料や果物、お菓子やお惣菜などを選んでお金を払う。そんな当たり前の普通のお買い物ができるようになり職員が買い物したり、ネットで買い物をしていた時よりも、頼んだものと違うという

トラブルはなくなった。また次回には「これを頼むわね」など店員さんに利用者が希望商品をお願いすることもできている。

《5. 考察、まとめ》

ご利用者を支援するにあたって、生活相談員が今の生活の中でもっと何かできる事はないかを感じ、社会資源に目を向け、協力していただけたところがないかを考え、実行することでご利用者の世界に広がりをもたせ、ご利用者の満足が向上される一助を担っていることを実感した。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

なし

《8. 提案と発信》

当施設の近隣で買い物ができにくい高齢者宅にもお知らせし、ご利用いただけるようにしている。また新宿区内の相談員連絡会において高齢者施設での利用者もお買い物を楽しんでいただけたらとの想いで情報提供として紹介した。